



学校だより



2023年9月29日
横浜市立港南台第一小学校

10月号

港南台第一小学校HP



Email y3konan1@edu.city.yokohama.jp Tel 832-0210 Fax 832-7771
URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/konandai/>

本の思い出

副校長 竹端 岳

今夏、数年越しの夢だった、北アルプス槍ヶ岳から北穂高岳への縦走を達成することができました。3泊4日のテント泊は、体力の消耗を防ぐために荷物の重量を抑えなければなりません。必要最低限の衣食住をザックに背負い、午前中は歩みを進め、午後はテントを設営してガスバーナーで自炊するなど、大袈裟に言えば「生きる」ための営みを繰り返していました。唯一、余剰の時間を過ごすために持って行ったのが、一冊の文庫本でした。雷雨の上がった夕暮れ、空と雲と稜線のコントラストを時折眺めながら、ゆっくりと本を読む。都会の喧騒を離れ、デジタル機器を排し、本の世界に没頭するのは、最近ではなかなかできなかった体験でした。

思い返せば、少年時代は実に本を読まない子でした。母が買ってくれた児童文学集は読書感想文のために一冊開いただけ。その文学集は十数年後、教員になって担任したクラスの学級文庫となり、教え子たちに読んでもらうことで役割を果たしました。

そんなわたしも、数年前、ふとしたきっかけに横浜市立図書館の貸出カードを取得し、本を借りて読むようになりました。公式サイトから本の検索や貸出予約をし、順番を待って貸出可能の連絡が来たら、最寄りの図書館へ足を運びます。特定の作家やジャンルにとられることなく、関心のある本を選ぶこともあれば、新聞や中吊り広告のキャッチコピーに触発されて借りることもあります。

本を読むようになると、改めてそこから得られることの多さを実感します。

- 新しいことに出会い、世界が広がる。
- 語彙が増え、話す・書くときの表現の幅が広がる。
- 場面や心情をイメージしたり想像したりする力がつく。
- 様々な人の思いや考えに触れ、自分の行動が変わる。

知識や教養を得られるだけでなく、考え方や自分の生き方にも影響を与えてくれる「本」は、これからの時代も人間にとって必要なアイテムとなるでしょう。

本のもつ魅力を伝えようと、今年度、読み聞かせボランティア「おはなしポケット」に参加させていただき、子どもたちにお気に入りの本を読み聞かせしています。先日は1年生の教室へ行き、約50年も前に出版された、かこさとし「むしばミュータンスのぼうけん」を読みました。すると、子どもたちは目を輝かせて聞き入り、話の内容を理解した上で、終わった後にある「決意」を胸に秘めていたのが、よくわかりました。

この秋もいくつかのクラスを訪れ、読み聞かせをします。かつてわたしに読み聞かせをしてくれた、今は亡き母の声を思い出しながら、そして、読まなかった文学集への償いの意味も込めて。

